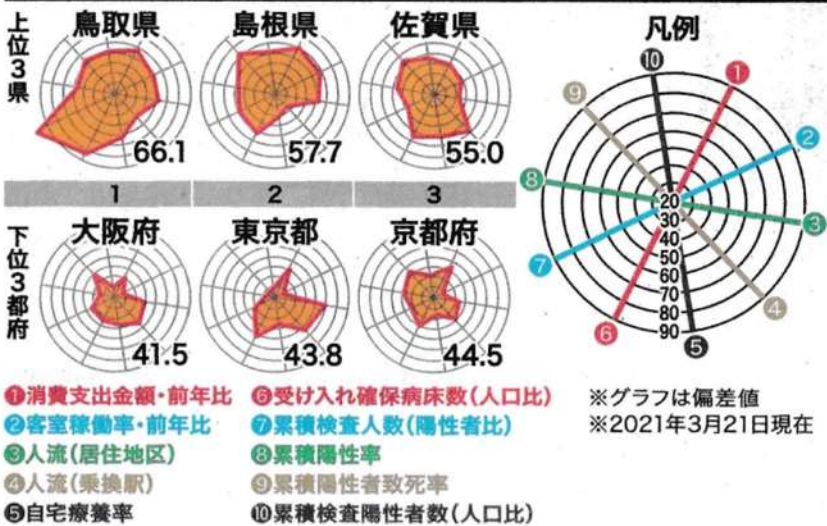


PCR徹底、早期発見で隔離療養へ 「鳥取方式」最高点 慶応大の全都道府県評価で

慶応義塾大商学部の浜岡豊教授は29日までに、新型コロナウイルス感染症への各都道府県の対応状況を10の指標で評価した結果、鳥取県が最も総合評価点が高かったと発表した。指標のうち「累積陽性者当たりの累積検査数」と「人口当たりの受け入れ確保病床数」の評価点が突出して高く、感染者の接触者らのPCR検査を徹底し、感染を封じ込める「鳥取方式」の有効性を裏付けた。
(岡宏由紀)

「健康影響」「対策」「市民の協力」「経済影響」の4分野から10指標を選定。3月21日までのデータを用いて指標それぞれを偏差値化し、総合評価点を算出した。鳥取に次いで島根、佐

新型コロナウイルス対策総合ランキングのレーダーチャート



賀、大分、富山の4県が上の順で評価が低かった。下位は大府、東京都、京都府、愛知、神奈川県。陽性者が少ない段階から多

くのPCR検査を行い、感染者を早期発見、隔離療養してもらうことで陽性率を全般的に低く抑えている」と評価。経済面の影響を示す指標の「(宿泊施設の)客室稼働率(前年比)」も昨年4～5月の第1波以降、急速に回復した。検査体制を強化する地域が感染を抑制できている。2位の島根県は死亡者がゼロで「累積陽性者致死率」が最良。大阪府は検査や病床確保が不十分で客室稼働率が長期低迷しており「対策の失敗が経済にも影響を与えている」と分析した。新型コロナウイルスへの対応は自治体によって大きく異なることから、浜岡教授は「データに基づいて対策の実績を評価し、国内外での成功事例に学んで対策を進める必要がある」と指摘した。

境で鳥ト町を突の院10た

る信のて